



初動



震災体験談



生活環境課交通防災係
(震災当時)

村上 忠則

余震がひどい中、15時10分に市役所の公用車の車庫で災害対策本部を立ち上げました。まずは物資と考え備蓄していたものを集めると同時に、提携しているスーパーなどに避難所で必要な物資の提供をお願いしました。避難所の対応は財政課長や税務課長が行うなど、状況に応じて臨機応変に担当を決定しました。その後、被害状況調査を消防団が中心となって開始。供給がストップしたガソリンで、市民の皆さんに復旧作業や医療、緊急自動車を優先させることを納得いただくために大変苦労したことは今でも忘れられません。

携帯電話がつかなくなかったので、連絡は防災無線を使用。しかし2日目の夜に通信状況が悪くなり慌てました。無線中継所のバッテリーが切れたのです。とっさには頭に浮かばなかったですね。訓練していないと絶対本番ではできないと痛感しました。

震災発生直後に、災害時応援協定を結んでいた姉妹都市の登別市・海老名市から救援物資の申し出がありました。交通網が寸断されている中、海老名市が米海軍厚木基地のヘリコプター部隊に物資輸送を要請し食料を輸送いただきました。その後、ガソリン不足が深刻となり、姉妹都市からの支援物資を栃木県鹿沼のインターチェンジで受け渡したこともありました。これらの経験で、車で約2時間圏内である「山形県長井市」「岩手県奥州市」と新たな災害時応援協定を平成24年5月に結びました。

震災で痛感したことは、職員一人一人が災害時の行動を把握し、市民の皆さんと一緒に防災訓練を積み重ねていくことが必要であるということ。市全体で取り組んでいきたいと思っています。



3 震災発生後の動き

1 災害対策本部の設置

主な出来事や取り組み

平成23年3月11日(金曜日)

14時46分、緊急地震速報の警戒音がなりました。その直後、大きな揺れがきました。

三陸沖を震源とするマグニチュード9.0(昭和53年の宮城県沖地震はマグニチュード7.4、エネルギー量は数百倍規模)。白石市で震度6弱、栗原市で震度7、宮城県内各地や福島、茨城、栃木各県で震度6強を観測しました。

15時10分、災害対策本部を設置しました。防災計画では、市役所の第3会議室に設置するようになっていましたが、余震が続く中で3階の会議室への設置は不可能と判断。当初設置した公用車の車庫から、市役所1階のロビーに災害対策本部の拠点を移しました。

- ・避難所の開設と食料や毛布などの物資調達。
- ・被害状況の把握と安否確認。

平成23年3月12日(土曜日)

- ・公共施設と避難所に生活関連情報の掲示を開始。
- ・広報車による生活関連情報の広報を開始。
- ・給水車による給水を開始。
- ・仮設トイレの設置と簡易トイレの配布。
- ・要援護者の受け入れ先を確保。
- ・医療体制の確認と今後の対応を検討。
- ・空路で海老名市からの支援物資が到着(登別市分を含む)。
- ・幼稚園・保育園・小中学校の休業期間の検討。
- ・県に燃料の供給を要請。
- ・緑が丘1丁目地内地滑りのため避難指示(17時5分)

平成23年3月13日(日曜日)

- ・震災で発生したがれきの一時保管場所を選定し、受け入れを開始。
- ・生活関連情報の報道を新聞・テレビ各社に依頼。
- ※市のネットワーク不通のため公立藤田総合病院(福島県)からモバイル端末でメール送信。
- ・医療機関や薬局の開業状況を確認。
- ・市役所1階に市民向けの携帯電話充電コーナーを設置。
- ・緑が丘12番地内滑りのため避難勧告(9時35分)
- ・城南2丁目地内滑りのため避難指示(11時45分)

平成23年3月14日(月曜日)

- ・市役所1階に生活相談窓口(ごみや上下水道、住宅、健康に関する相談)を開設。
- ・市のネットワークが疎通し、市ホームページ再開。生活関連情報の配信を開始。
- ・市民バスの一部運行を再開。



主な出来事や取り組み

平成23年3月14日(月曜日)

- ・鷹巣字柴ノ下地内法面崩壊のため避難勧告（14時45分）
- ・市役所の電気復電（16時5分）。
- ・火葬場の受け付けを再開。

平成23年3月15日(火曜日)

- ・福島県からの避難者受け入れを開始。
- ・公共施設と避難所に公立刈田総合病院で測定した放射能測定結果の掲示を開始。
- ・しろいし安心メール再開。生活関連情報の配信を開始。
- ・住宅の応急危険度判定調査を開始。
- ・生活情報の全地区回覧を開始。

平成23年3月16日(水曜日)

- ・国県に燃料確保を強く要望。
- ・市役所の窓口業務を再開。

平成23年3月17日(木曜日)

- ・全戸の電気復電（16時30分）。
- ・ごみ収集日を決定。

平成23年3月18日(金曜日)

- ・被災証明（住居以外の建物など）の受け付けを開始。
- ・ボランティアセンターを設置。
- ・市民タクシー通常運行を再開。

平成23年3月19日(土曜日)

- ・緑が丘のガス復旧せず。卓上のガスコンロを配布。
- ・全壊家屋に住む方に対し、雇用促進住宅の活用を検討。

平成23年3月20日(日曜日)

- ・ミヤコー「臨時バス長町白石線」が運行開始。

平成23年3月21日(月曜日)

- ・ごみの収集を開始。

平成23年3月22日(火曜日)

- ・り災証明の受け付けを開始。
- ・確定申告の受け付けを再開。
- ・保育園8園で、通常保育を開始。

平成23年3月23日(水曜日)

- ・臨時議会を開会。被害状況の報告と災害応急費の補正予算の承認。
- ・図書館・アテネを再開。

平成23年3月24日(木曜日)

- ・全戸の電話回復。



災害対策本部は、平成23年3月11日から31日まで、24時間体制で災害対策を実施しました。

2 対策本部からの情報発信

本市では市民の皆さん向けにいち早く現在の状況や生活関連情報・災害関連情報の提供に努めました。広報車では生活関連情報を、「しろいし安心メール」では、災害関連情報などを配信しました。

災害対策本部からの情報発信

(1) 本部長(市長)メッセージ

- ア. 広報しろいし3月30日発行 本部長から市民へのメッセージ
- イ. テレビ・ラジオへの取材対応

(2) 広報しろいし

- ア. 平成23年3月15日、18日、23日、30日に3月号災害特別版
- イ. 広報しろいし平成23年4月号の発行を中止



(3) ウェブサイトによる情報発信

平成23年3月14日にウェブサイト復旧後、災害関連情報を24時間体制で発信しました。ホームページへのアクセス件数は通常の約3倍に増えました。



(4) しろいし安心メール

3月15日の安心メール再開後、災害関連情報を配信しました。安心メールへの登録件数は地震から1カ月で約20%増加しました。



(5) 情報掲示、広報車、回覧

3月12日から広報車による生活関連情報を広報し、公共施設と避難所に掲示を開始しました。また、3月15日に生活関連情報の全地区回覧を開始しました。

〈避難所に掲示された生活情報（一部）〉

給水車巡回のお知らせ、医療機関の開設状況、市内産直所・スーパー開設状況、薬提供に関する情報、交通情報、学校休校に関するお知らせなど。



3 避難所の設置・運営

学校や公民館などを指定避難所とし、震災後には32カ所に見直しました。また、各自主防災組織や自治会では、集会所などを一時避難場所として地区の被害状況を確認することにしました。

(1) 避難所設置

震災当日に避難所を開設し、3月13日には市内23カ所の避難所に最大1,910人が避難しました。その後、物流やライフラインが回復し、徐々に避難者の数は減少。4月12日時点で1カ所だけとなり、9月30日にはすべての避難所を閉鎖しました。避難者数は延べ18,437人でした。



■白石市指定避難所一覧

(平成25年12月18日現在)

名称	住所
白石第一小学校	白石市字半沢屋敷前2-2
いきいきプラザ	白石市沢端町4-1
白石高等学校	白石市八幡町9-10
白石工業高等学校	白石市郡山字鹿野43
中央公民館	白石市字寺屋敷前25-6
白石中学校	白石市南町1丁目2-79
白石第二小学校	白石市字白石沖29
スポーツセンター	白石市東町1丁目6-1
鷹巣地区コミュニティセンター	白石市緑が丘18-15
ホワイトキューブ	白石市鷹巣東2丁目1-1
越河小学校	白石市越河字丑山下44
南中学校	白石市越河平字平合23-1
越河公民館	白石市越河五賀字南原2-1
斎川小学校	白石市斎川字町尻南1-1
斎川公民館	白石市斎川字新町尻31
大平小学校	白石市大平森合字権現山1

名称	住所
大平公民館	白石市大平中目字西田7
東中学校	白石市大鷹沢三沢字熊野堂6-3
大鷹沢小学校	白石市大鷹沢三沢字五丁目24-1
大鷹沢公民館	白石市大鷹沢三沢字五丁目48
白川小学校	白石市白川津田字大淵30
白川中学校	白石市白川津田字中前1-2
白川公民館	白石市白川津田字内堀6-1
福岡小学校	白石市福岡長袋字陣場1
福岡中学校	白石市福岡長袋字山ノ下25
福岡公民館	白石市福岡長袋字陣場が丘12-1
総合福祉センター	白石市福岡蔵本字茶園62-1
深谷小学校	白石市福岡深谷字松田23
深谷公民館	白石市福岡深谷字南沖21
小原小学校・小原中学校	白石市小原字伊勢原道上1
小原公民館	白石市小原字中北前田3-2
スパッシュランドしろいし	白石市小原字西川久保18

(2) 食事・毛布の提供

停電や電話が通じないことで、避難所と市災害対策本部との間でやり取りができず、避難者数の把握、食料や毛布の配布が大変困難な状況となっていました。

震災発生時は、本市の備蓄品だけでは足りず、市内の企業との協定や姉妹都市との応援協定により、食料品や毛布、発電機などの提供を受けました。

災害発生3日後ぐらいには、全国から多くの支援物資が届くようになりました。また、一部の避難所では地元の自主防災組織や自治会による炊き出しなどが行われました。



(3) 避難所への職員配置

市内各地に設置された避難所へ職員を配置し、避難者の方の安全確保などに努めました。

(4) 避難所健康相談

避難者の方の健康管理をはかるために、白石市医師会、白石歯科医師会、市保健師などが避難所巡回を行いました。

■実施期間

3月12日から6月6日
3月12日から4月8日までの毎日と6月6日までの9日間

■実施回数

23カ所、延べ174回、避難所の巡回相談を実施

■実施内容

- 市保健師と白石市医師会医師、白石歯科医師会歯科医師、日赤医療班、こころのケアチーム、自衛隊衛生班、医療ボランティアなどが同行し、巡回健康相談を実施
- 重傷者の移送、医師による診察・処方、薬の確認、健康状態の把握、健康相談など
- 避難所に救急セットや手指消毒液、マスク、歯ブラシなどを配布
- 医療マップや薬局の営業情報・処方箋なしの臨時的な薬の処方、感染予防のための手指消毒・喚起などのお知らせを掲示

(5) 要援護者への支援と施設・医療機関などとの連携

地域や福祉団体、医療機関などと、福祉事務所・長寿課・地域包括支援センター職員が連携しながら要援護者の支援を行いました。

ア. 市保健師が避難所を巡回し、避難所での生活が困難と判断した要援護者（寝たきりや認知症の方）を受け入れてくれる施設・グループホーム・医療機関を探し移送。

・期間：3月11日～21日

・移送者：34人

・移送先：特別養護老人施設2カ所、老人保健施設2カ所、認知症グループホーム4カ所、病院2カ所

イ. 在宅での生活が困難な要援護者の相談に対して訪問などにより状態を確認し対応。

・期間：3月12日～24日

・相談者：家族、介護支援専門員、介護事業所、自治会長、民生委員等 49件

ウ. 避難所生活から自力で在宅生活に戻れない方の支援。

・期間：4月初旬～避難所閉鎖

エ. 福祉施設・介護保険施設・医療機関などへの支援物資（食料・介護用品など）の仕分けと配布。

・期間：3月12日～4月22日

グループホーム5カ所、介護保険施設等5カ所、福祉施設3カ所、医療機関5カ所

(6) 健康管理についてのチラシ配布

避難所で過ごす人たちの健康を維持するために、体操や健康対策など、健康管理についてのチラシなどを配布しました。

(7) 仮設トイレの設置

避難所に仮設トイレを設置しました。

施設名称	設置数
市役所	3基
福岡中学校	3基
白石第二小学校	4基
ホワイトキューブ	2基
中央公民館	2基
白石第一小学校	1基
大平小学校	1基
スポーツセンター	1基
鷹巣地区コミュニティセンター	1基



4 生活相談窓口

市役所1階にごみや上下水道、住宅、健康などに関する相談を受ける生活相談窓口を開設しました。

当初は、ライフラインに関する相談が大半を占めていましたが、時間の経過とともに相談内容も徐々に多様化し、中には震災後の生活環境の変化で精神的な支援が必要と思える相談もありました。

少しでも役立つ最新の情報を伝えたいという思いが強くなりましたが、当時、市役所内の情報伝達手段も混乱しており、絶え間なく来庁する相談者の方々に刻々と変わる災害関連情報を整理、把握して対応することは難しい状況でもありました。

数日後には、広報担当職員が必要な情報を収集・分類して「大震災電話対応マニュアル」を作成。情報が入るたびに追加・差し替えを行い、さまざまな相談に対応できるよう情報の共有に努めました。

生活相談窓口

3月14日に市役所1階に被災者の相談をワンストップで受け付ける生活相談窓口を開設しました。

担当職員	4～5名(交代制)
相談件数	累計/約920件 ※3月14日～3月26日



生活相談窓口での主な相談内容(抜粋)

3/14(月) 相談約80件

- 人工透析の方のガソリン不足
- 葉の受け取り
- 道路の陥没
- 石垣の倒壊処理
- 危険度判定
- 廃材の処分
- 屋根瓦の応急措置
- 土地の地割れ(緑が丘)
- 瓦の処分
- 断水
- 要援護者の受け入れ
- 水道の復旧状況
- ごみの回収

3/15(火) 相談約80件

- 水道の漏水
- 断水
- ガソリン不足
- 電気の復旧状況
- 道路の陥没
- 屋根瓦の落下
- 避難地区の確認
- おむつ・ミルク不足
- 放射能
- 福島県からの避難者の受け入れ

3/16(水) 相談約90件

- 石垣の崩れ
- 水道の漏水
- 水道管の破裂
- 水道の復旧状況
- 危険度判定
- 下水道広報の徹底
- マンホールの破損
- 給水所の設置
- 法面崩壊の予防
- ブロック塀倒壊の予防

3/17(木) 相談約100件

- 漏水
- マンホールの隆起
- 屋根瓦の落下

3/18(金) 相談約90件

- マンホールの漏水
- たて堀から漏水
- ひびから湧水

3/19(土) 相談約80件

- ブルーシートの配布

3/20(日) 相談約80件

- マンホールから漏水
- 水道の復旧状況

- 漏水
- 断水

3/21(月) 相談約80件

- 断水
- ごみの広報、節水の広報
- 給水所の設置

3/22(火) 相談約80件

- 仮設住宅の確保

3/23(水) 相談約50件

- バスの運行状況
- 水道の復旧状況
- 下水の復旧状況
- おむつ不足
- 漏水
- 危険度判定
- ごみの回収
- 放射線
- 福島県からの避難者の受け入れ
- 給水場所・時間

3/24(木) 相談約50件

- ごみの回収
- ガソリン不足

- バスの運行状況
- マンホールの陥没

3/25(金) 相談約50件

- 燃料不足
- ボランティアの証明
- り災証明の発行
- 土留め崩壊の予防
- 通行止めによるごみ集積所へのルート変更
- 原発避難者の避難先の届出

3/26(土) 相談約10件

- 土地被害への補助
- 休日当番医
- ごみ処分
- り災証明の発行
- 自転車の貸し出し



5 小中学校の休校など

生徒の安全を考え、教育委員会からの指示で、小中学校の休校、卒業式の延期、修了式の中止などを実施しました。保護者同伴のもと校長室で個別に証書を授与する学校もありました。



(1) 市立小中学校の休校

平成23年3月14日～平成23年3月22日

(2) 市立小学校の卒業式の延期

変更前：平成23年3月18日
変更後：平成23年3月22日～24日の午前9時～午後4時までの間に各校の校長室において卒業証書授与

(3) 市立小中学校の修了式の中止

当初予定：平成23年3月24日

(4) 市立幼稚園卒園式延期

変更前：平成23年3月15日
変更後：平成23年3月29日(第一幼稚園)
平成23年3月30日(第二幼稚園)

(5) 保育園の卒園式の中止

当初予定：平成23年3月26日

6 主な行事の中止

来場者の安全配慮・計画停電の影響・節電への協力などを考慮し、震災直後に市内で予定されていたイベントを開催時間変更・延期・中止しました。

3月開催予定の行事・イベントを中止しました。

平成23年3月23日 深谷工業団地落成式
平成23年3月25日～27日 春季川干し(沢端川)
平成23年3月27日 市内一斉クリーン作戦
平成23年3月29日 沖の沢・郡山線開通式